



後高倉上皇院宣写／紙本墨書／縦 28.0×横 34.7 cm／江戸時代（原本貞応2〈1223〉年）

貞応2年(1223)2月22日、道元禅師は師事していた明全(1184～1225)とともに建仁寺を出発し、宋へ渡海するため博多へ向かう。本史料は、その前日である21日付けで、後高倉上皇(1179～1223)が、明全と他三人の門弟に対して、西海道の通行を許可保障した院宣である。同日付けで六波羅探題過所も発給されており、この過所(通行手形)から門弟三人とは道元禅師・廓然・高照であったことがわかる。院宣と過所を得たことによって、明全・道元禅師一行は博多までの通行を保障された。一行は、瀬戸内海を経て3月中旬には博多に到着し、3月下旬には博多港から中国へ出発したという(『訂補本建徳記』)。

なお、この院宣と過所の原本は永平寺に伝来していたようである。しかし、正徳4年(1714)の永平寺大火によって両書は焼失してしまったようである。現在永平寺に伝わるものは、その焼失以前に作られた透き写しを、永平寺29世承天則地(じょうてんそくち)(1655～1744)が入手したものである。